



東溪校区の文化財

東溪小校区は、日田市の東端にあり、玖珠川や国道210号、JR久大本線が東西に横断しており、川沿いの天ヶ瀬温泉は、奈良時代に書かれた「豊後国風土記」にも登場する古い伝承を持つ温泉場です。今も旅館が立ち並び多くの観光客が訪れています。温泉街近くには地名の由来にもなった桜滝があり、ほかにも慈恩の滝や観音の滝（三瀑）があり、自然豊かな地域を彩っています。



また、鞍形尾神社や高塚愛宕不動尊といった古い由緒を持つ神社仏閣が残り、五輪塔や宝塔といった石造物も数多く残されています。江戸時代には玖珠や阿蘇・竹田方面へ抜ける交通の要衝でもあり、往時の石畳が残っている場所もあります。

東溪校区の主な文化財

草三郎大神宮五輪塔婆附角塔婆【県有文】

(天瀬町馬原)

五輪塔は仏教で供養のために作られた石造物です。方形の地輪、円形の水輪、三角の火輪、半月型の風輪、団形の空輪からなり、仏教で言う地水火風空の五大要素を表しています。角塔婆は角型柱のもので、同じく供養のために作られました。南北朝時代の1347（貞和3）年の銘文が残されています。また、この周辺の寺ヶ迫などにもたくさんの石造物が残されており、この周辺にかつて寺院があったことがうかがえます。



石祠



五輪塔婆



角塔婆

高塚地蔵のイチョウ【県天記】(天瀬町馬原)

高塚愛宕地蔵尊は、縁起によると952（天曆6）年に小堂が建立されて始まったと伝わります。伝承によると、その頃から存在したイチョウの木で、樹齢は1000年を超えるとされています。突起が乳の形のため乳イチョウとも呼ばれます。



川原隧道と石畳

【県史跡】(天瀬町女子畑川原区)

郡代・塩谷大四郎の命

による日田玖珠往還の改修に伴い、山を掘りぬいた後、石組を築き新たに作られた長さ約52mのトンネルです。両端には石畳も残されています。トンネルの近くには工事に携わった廣瀬久兵衛の名が残る石柱があります。現在は国道210号から少し山に入ったところにひっそりとありますが、当時は、日田と玖珠を結ぶ主要な道として、たくさんの人や荷物を運ぶ馬などが行き交っていました。平成28年の熊本地震で石組が落ち、現在は立入禁止です。

東溪校区の主な文化財



くらがとう

鞍形尾神社の自然林

【県天記】(天瀬町馬原)

天瀬町の西端にあり、神社の北西1ヘクタールに広がるウラジロガシを中心とした高木などが残る自然林です。鞍形尾神社は、伝承によると

877(元慶元)年に八幡様が岩松峯に現れ、その後、元大原から、大原八幡宮へと遷ったという古い神社です。江戸時代の豪商の寄進した石灯笼なども残り、大原に遷った後も日田の人々から敬われていました。

台神社前旧往還石畳道【市史跡】

五馬方面へ抜け、その先で熊本や竹田方面と分かれる街道があり、台神社周辺には当時の石畳の一部が残されています。また、神社には境内林として大きな樹木が残っています。



① 石畳道

台神社の森【市天記】



② 台神社の森



東溪校区の文化財

- ① 高塚地蔵のイチョウ【県天記】
- ② 草三郎大神宮五輪塔婆附角塔婆【県有文】
- ③ 義民穴井六郎衛門生誕の地【未指定】
- ④ 鞍形尾神社の自然林【県天記】
- ⑤ 川原隧道と石畳【県史跡】
- ⑥ 台神社前旧往還石畳道【市史跡】
- ⑦ 台神社の森【市天記】
- ⑧ 長三洲公園【未指定】

知っておきたい文化財

穴井家古文書【市有文】

(北友田一丁目、郷土史料館)

旧馬原村庄屋穴井六郎右衛門は、村の農民が自然災害や代官の年貢の取立てに苦しむ様子に耐えかね、幕府に直接訴えました。この古文書は幕府領内13ヶ村の庄屋の連名による直訴の血判状の写しです。穴井六郎右衛門は共に幕府に直訴した息子や飯田惣次らと囚われの身となり、死罪とされましたが、今でもその勇気ある行動が「義民」として称えられています。



長三洲公園【未指定】

(天瀬町馬原)

ちようさんしゅう

長三洲は、漢学者長梅外の長男として天保4年にこの地に生まれ、後に咸宜園に入門し、「宜園三才子」の1人と呼ばれます。その後大坂では旭荘塾の塾頭を務め、尊王攘夷の志のもと、長州藩では高杉晋作の「奇兵隊」に加わりました。明治時代になっても新しい学校制度の創設に関わるなど大いに活躍しました。





いつま校区の文化財

いつま（五馬）地区は日田盆地の南東側にあり、標高300～450mの多くの小さな谷が入り組んでいる台地地形が特徴です。「五馬」という名前はかつての五馬市・塚田・出口・本城の各村を含む地域の総称として、用いられています。

五馬地区の歴史は古く、塚田の高瀬川遺跡で約3万4千年前（旧石器時代）の火を使った跡が見つかっており、その後続く縄文時代も狩りを中心とした生活の跡が多く見られます。弥生時代に入ると人々の住居が作られるようになり、古墳時代には「豊後国風土記」に記された五馬媛いつまひめの墓を連想させるような墓が中尾原遺跡や宇土遺跡で発見されています。

古代には日田郡五郷のうちの鞆編郷ゆきあみごうに含まれていたとみられ、中世には日田荘の一部、五馬荘いつまのしょうとして開発が進みます。中世の終わりには、当時豊後の国を治めていた大友宗麟に対して反乱を起こし、追われた田北紹鉄じょうてつが五馬荘（現在の大山町西大山付近）で討ち死にします。

近世には本城村・塚田村・出口村・芋作村・新城村・五馬市村の名前が見られ、現在の出口には当時の日田と小国を結ぶ道の一部が残されています。



宇土遺跡3号墳【市史跡】（天瀬町五馬市）

この古墳は五馬台地の北西部の丘陵に3基ある古墳のうちの1基で、古墳時代中期に造られました。古墳の形については、はっきりとはわかりませんが、古墳の中には堅穴式石室と呼ばれる遺体を置く部屋が2つ並んで発見されました。中からは装飾品や武器のほか、2～3人の遺体が入っており、どちらも姉と弟であることが分かりました。当時の五馬を治めていた豪族の墓と考えられますが、女性については、豊後国風土記に記された五馬媛を想像させます。

石室が2基並んだこの3号墳は大分県内でも例がなく、市の史跡に指定されました。

いつま校区の主な文化財

田北紹鉄夫人の墓【未指定】 （天瀬町五馬市）

五馬荘で討ち死にした田北紹鉄の墓は、大山町西大山にあります。夫人の墓は、天瀬町五馬市の五馬出張所の裏にあり、地域の人や子孫によって、供養されています。



いつま校区の主な文化財

■ くにち楽【本城くにち楽：県無民、出口本村楽・出口袋七夕楽、五馬楽：市無民】

(天瀬町本城・出口・五馬市)

五馬地区で毎年10月の下旬に五穀豊穡に感謝して、神社に奉納される踊りです。杖楽といわれる杖を使った踊りで、天狗・恵比寿・大黒などの「面かぶり」が杖使いたちを指揮します。本城では本城くにち楽（毎年10月20、21日）として金凝神社、出口では本村集落の出口本村楽・袋集落の出口袋七夕楽（相撲甚句が特徴）として老松天満社（毎年10月24、25日）、五馬市では五馬楽（毎年10月26、27日）として玉来神社に奉納されます。これらのくにち楽は、地域の伝統を伝える貴重なものとして、本城くにち楽が県指定の無形民俗文化財に、出口本村楽・出口袋七夕楽、五馬楽が市の無形民俗文化財に指定されています。



見竹天満宮の天満かつら【市天記】 (天瀬町出口)

出口の見竹天満宮の境内にあるカツらは幹の周りが4.4m、高さは20m以上あり、樹齢は不明。境内の杉などと小さな森を形成しています。



金凝神社木造仮面【県有文】 (天瀬町本城)

天狗や翁、鬼、河童の木製の仮面で、楠・桐・檜製です。いずれも一木で作られており、裏面が平たくなっていることから、実際には顔につけたとは考えにくいものです。15世紀頃に作られたと思われます。



いつま校区の文化財

- ① 玉来神社拝殿と棟札【市有文】
玉来神社神像（23軀）【県有文】
五馬楽【市無民】
- ② 出口本村楽（出口くにち中村楽）【市無民】
出口袋七夕楽（出口くにち袋七夕楽）【市無民】
老松天満社（本殿等4件）【国登文】
- ③ 見竹天満宮の天満かつら【市天記】
- ④ 山中薬師堂鱧口【県有文】
- ⑤ 宇土遺跡3号墳【市史跡】
- ⑥ 金凝神社木造仮面【県有文】
本城くにち楽【県無民】



文化財にふれてみよう！みてみよう！



日田市埋蔵文化財センター

市内の発掘調査で出土した遺物などを整理保管する施設で、出土遺物の展示を行っています。その他、火おこしや勾玉づくり、歴史講座などを通して、歴史を体験することができます。

開館時間：午前9時～午後4時 閉館日：土・日・祝日・年末年始
問い合わせ先：0973-24-7171 住所：北友田3丁目2893-44（萩尾公園隣接）
（日田市教育庁文化財保護課） 入館料：無料



ガランドヤ古墳公園

国指定史跡「ガランドヤ古墳」の保存、管理及び公開活用のもととして設置された公園です。ガイダンス棟では展示パネルと共に解説動画や3DVR画像などを見学でき、1号墳保存施設は定期的に公開しています。（要予約）

開館時間：午前9時～午後5時 閉館日：年末年始
問い合わせ先：0973-24-7171 住所：大字石井1187 入館料：無料



日田祇園山鉦会館

「日田祇園山鉦会館」は、国の重要無形民俗文化財である「日田祇園ひきやまの曳山行事」の歴史的伝統文化の保存と祭りの振興をはかるため、昭和63年に開館した施設です。6基の山鉦と、見送り幕、水引き幕等、祇園祭に関するものを中心に展示しています。

開館時間：午前9時～午後5時 閉館日：水曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始
問い合わせ先：0973-24-6453 住所：隈2丁目7-10
入館料：大人310円、小・中・高生210円



日田市立郷土史料館

郷土史料館のある岳林寺は、1342年に、元の帰化僧である明極楚俊みんきょそしゆんによって開かれ、日田郡司の大蔵永貞おんじながさだが建立したと伝えられます。この岳林寺に残された貴重な文化財を中心として、吹上遺跡からの出土遺物や琴平町にあった普門寺しょうがんおしやうざうの笑巖和尚坐像なども合わせて展示しています。

開館時間：午前9時～午後5時 閉館日：年末年始
問い合わせ先：0973-22-4540 住所：北友田1丁目1317 入館料：無料



日田市立小鹿田焼陶芸館

国の重要無形文化財である小鹿田焼の魅力と伝統の技を広く紹介する施設として、100以上に及ぶ作品と関連資料を展示しており、歴史や作業工程をたどりながら文化財としての小鹿田焼の魅力に触れることができます。

開館時間：午前9時～午後5時 閉館日：水曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始
問い合わせ先：0973-29-2020 住所：源栄町138-1 入館料：無料



前津江郷土文化保存伝習施設

県の無形民俗文化財である大野楽の伝承と前津江に伝わる歴史民俗資料の保存のために建設された施設です。県指定有形文化財の「懸仏かけぼとけ」や市指定有形文化財の「四季農耕図絵馬しきのうこうずえま」などが展示しています。

開館時間：午前9時～午後4時30分 閉館日：土・日・祝日・年末年始
問い合わせ先：0973-24-7171 住所：前津江町大野837-1 入館料：無料

咸宜園教育研究センター

咸宜園教育研究センターは、廣瀬淡窓が開いた私塾「咸宜園」のガイダンス棟で、廣瀬淡窓や咸宜園、全国から集まった門下生たちについて調査や研究をおこない、展示会や市民の学習会、その他の研究資料として広く公開しています。また、来園者に対して咸宜園の説明や施設案内なども行っています。

開館時間：午前9時～午後5時 閉館日：水曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始
問い合わせ先：0973-22-0268 住所：淡窓2丁目2-18 入館料：無料



天領日田資料館

天領日田資料館は、天領日田と町人文化を紹介した施設です。江戸時代の民俗文化や天領（幕府の直轄地）に関する資料が豊富で、数多くの書画や古文書等、約100点の品々を展示しています。

開館時間：午前9時～午後5時 閉館日：水曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始
問い合わせ先：0973-24-6517 住所：豆田町11-7
入館料：大人310円、小・中・高生210円



ぎょうとくけ 行徳家住宅

行徳家は代々医者の家で、建築様式は当時よくみられた^{まがりや}曲屋形式の屋根と、土間を広く取った^{だいしょうや}大庄屋の形式です。住宅には当時の医療資料を展示しています。

開館時間：午前9時半～午後4時半 閉館日：月・金・年末年始
問い合わせ先：0973-27-2177 住所：夜明関町3256 入館料：無料



や は た け 旧矢羽田家住宅

江戸時代に建築された民家で、屋根の形に特徴があります。屋根の^{みね}峰がコの字となる「くど造り」という形式で、この造りの民家としては県内で唯一現存するものです。もとは東大山^{こいつま}小五馬にありましたが、保存のため現在地に移されました。

開館時間：要事前予約 閉館日：要事前予約
問い合わせ先：0973-24-7171 住所：大山町西大山3603 入館料：無料



豆田まちづくり歴史交流館

豆田まちづくり歴史交流館は、豆田地区の住民による防災活動をはじめ、町並みの保存活動の情報発信、伝統的建造物の伝統工法や道具の紹介などまちづくり活動の拠点施設として開館しています。

開館時間：午前9時～午後5時 閉館日：水曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始
問い合わせ先：0973-23-8922 住所：豆田町9-15 入館料：無料



日田市立博物館

日田市の大地の成り立ちや豊かな自然、そして日田盆地の周囲の山々から流れ出る水の恵みに育まれた日田の川に関わる文化を中心に展示する自然史博物館。年に2回、企画展なども開催しています。

開館時間：午前9時～午後5時 閉館日：水曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始
問い合わせ先：0973-22-5394 住所：上城内町2-6（複合文化施設アオーゼ3階）
入館料：無料



子ども版日田市の歴史と文化財 掲載文化財一覧

- 有形文化財
- 無形文化財
- 民俗文化財
- 記念物

- 文化的景観
- 伝統的建造物群
- 保存技術
- 埋蔵文化財



咸宜校区の文化財

72 P / 73 P

- 岩尾家住宅【国登文】
- 草野家住宅【国重文】
- 長福寺本堂【国重文】
- 日田市豆田町伝統的建造物群保存地区【国伝建】
- 廣瀬淡窓旧宅及び墓【国史跡】
- 咸宜園跡【国史跡】
- 大原八幡宮の米占い【国選無民】
- 大原八幡宮銅鉾【県有文】
- 大原八幡宮御田植祭【県無民】
- 薬師堂山古墳【県史跡】
- 大原八幡宮【市有文】（楼門・拜殿・幣殿・本殿）
- 大般若波羅密多經【市有文】



桂林校区の文化財

74 P / 75 P

- 木造十一面観音立像【国重文】
- 木造兜跋毘沙門天立像【国重文】
- 木造毘沙門天立像【国重文】
- 木造四天王立像【国重文】
- 丸山古墳【市史跡】
- 永山城跡【県史跡】
- 八阪神社【未指定】
- 堤城跡【未指定】
- 花月川隧道【未指定】
- 日田神社【未指定】



日隈校区の文化財

76 P / 77 P

- 山田家住宅【国登文】
- 隈まちづくりセンター黎明館【国登文】
- 後藤家住宅【国登文】
- 日隈神社平緑細線式獣帯鏡【県有文】
- 酒楽神社木造薬師三尊像【市有文】
- むらくもの松【市天記】
- 日隈城【未指定】



若宮校区の文化財

78 P / 79 P

- 日田祇園の曳山行事【国無民】
- 鶉飼【県無民】
- 有田古墳出土一括品【市有文】
- 柳ノ本遺跡【未指定】
- 入龍遺跡【未指定】



三芳校区の文化財

80 P / 81 P

- 金銀錯嵌珠龍文鉄鏡【国重文】
- 法恩寺山古墳群【国史跡】
- 宝篋印塔【市有文】
- 元大原神社（神殿・幣殿・拜殿・水盤舎・神輿蔵）【市有文】
- 求来里笠塔婆【市有文】
- 牧原千人塚【市史跡】



高瀬校区の文化財

82 P / 83 P

- 宇野家住宅【国登録】
- 石人【県有文】
- 木造阿弥陀来坐像【県有文】
- 石幢【市有文】
- 永平寺跡板碑【市有文】
- 伝姫塚古墳出土鉄剣【市有文】
- 阿弥陀如来坐像【市有文】
- 姫塚古墳【市史跡】
- 惣田塚古墳【市史跡】
- 黒岩梵字【未指定】



光岡校区の文化財

84 P / 85 P

- 長善寺 鐘楼門【国登文】
- 吹上遺跡出土遺物【国重文】
- 吹上遺跡【県史跡】
- 岳林寺木造明極楚俊坐像【市有文】
- 吹上観音坐像【市有文】
- 須恵器子持高坏【市有文】
- 岳林寺文書【市有文】
- 片山磨崖種子【市史跡】
- 三郎丸古墳【市史跡】



朝日校区の文化財

86 P / 87 P

- 小迫辻原遺跡【国史跡】
- 朝日天神山古墳【県史跡】
- 朝日宮ノ原遺跡4号中世墓出土品【県有文】
- 木造大日如来坐像【市有文】
- 木造毘沙門天立像【市有文】



三和校区の文化財

88 P / 89 P

- 石坂石畳道と石阪修治碑【県史跡】
- 龍林寺木造薬師如来像付 龍林寺薬師如来縁起版木【市有文】
- ズミの群生地【市天記】
- 古代の区画【未指定】
- 三和教田遺跡【未指定】



有田校区の文化財

90 P / 91 P

- 耶馬溪（一部）【国名勝】
- 磐戸楽【県無民】
- 有田町若八幡社やっこ振り行列【市無民】
- 世尊寺木造薬師如来坐像・木造地藏菩薩立像・木造仏像残欠【市有文】
- 城山古墳【県史跡】
- 平島古墳【市史跡】
- おきあげ人形製作資料【市有民】



小野校区の文化財

92 P / 93 P

- 小鹿田焼【国無文】
- 小野川の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木群【国天記】
- 小鹿田焼の里【国文景】
- 精米用箱水車【市有文】
- 溝口神社（上小竹天満宮）【未指定】
- 戸山神社（彦山別社）【未指定】
- 夫婦岩観音（小野川上流部の火山活動跡）【未指定】



大明校区の文化財

94P/95P

- 行徳家住宅【国重文】
- 井上酒造店舗兼主屋【国登文】
- 井上家住宅（主屋等7件）【国登文】
- 大肥吉竹遺跡【未指定】
- 天満宮老松社【未指定】
- 大肥遺跡【未指定】
- 小月橋【未指定】
- 北山権現【未指定】
- 関河岸跡【未指定】



石井校区の文化財

96P/97P

- ガランドヤ古墳【国史跡】
- ガランドヤ古墳出土品【県有文】
- 穴観音古墳【国史跡】
- 筏場目鏡跡【元県有文（指定解除）】
- 内河野村古絵図【市有文】
- 石井神社銅矛【県有文】
- 逆谷橋【未指定】



前津江校区の文化財

98P/99P

- 大野老松天満社旧本殿【国重文】
- 老松天満社懸仏【県有文】
- 大野楽【県無民】
- 天井絵馬【市有文】
- 懸仏（御前嶽神社）【市有文】
- 四季農耕図絵馬【市有文】
- 像代（かたしろ）【市有文】
- 逆修塔【市有文】
- 大友書状【市有文】
- 百姓日記【市有文】
- 大乘妙典経【市有文】
- 宝篋印塔【市有文】
- どうぼう様（藤房様4体）【市有文】
- ユズリハ自然林【市天記】
- 柱の木【市天記】
- 台の殿様屋敷跡【市史跡】



津江校区の文化財

100P/101P

- 津江神社のスギと自然林【県天記】
- 伝来寺庭園【県名勝】
- 老松様の餅揚げ祭・的ほがし祭【県選無民】
- 中西村・梅野村の絵地図【市有文】
- 間地橋【市有文】
- 浦宮神社拝殿・神殿/せり持ち式石橋【市有文】
- 十一面観世音菩薩坐像【市有文】
- 先祖元・五輪塔【市有文】
- 西雉谷笠塔婆附、石造塔婆【市有文】
- 宝篋印塔【市有文】
- 小竹供養塔【市有文】
- 年の神境内地伝、相垣越前守の墓【市史跡】
- 木地師半兵衛・徳兵衛の墓【市史跡】
- 御所跡と御所の谷【市史跡】
- 菊池七人塚【市史跡】
- 銀杏の木【市天記】
- クスの木【市天記】
- エドヒガンザクラの木【市天記】
- ムクの木【市天記】
- 手水野のカツラ林【市天記】
- イチョウの木【市天記】
- アカマツの木【市天記】
- モミジの木【市天記】
- モミの木【市天記】
- 小平のカツラ林【市天記】
- スギの木【市天記】
- 浦宮神社 境内地（樹木・下草シダ類）【市天記】



大山校区の文化財

102P/103P

- 旧矢羽田家住宅【国重文】
- 鳥宿神社鰐口【県有文】
- 木造釈迦如来立像【市有文】
- 森家五部大乘経【市有文】
- 鳥宿山自然林【市天記】
- 鳥宿神社はだか参り【市無民】



東溪校区の文化財

104P/105P

- 草三郎大神宮五輪塔婆附角塔婆【県有文】
- 穴井家文書【県有文】
- 高塚愛宕地蔵のイチョウ【県天記】
- 川原隧道と石畳【県史跡】
- 鞍形尾神社の自然林【県天記】
- 台神社の森【市天記】
- 台神社前旧往還石畳道【市史跡】
- 長三洲公園【未指定】
- 義民穴井六郎衛門生誕の地【未指定】



いつま校区の文化財

106P/107P

- 老松天満社（本殿等4件）【国登文】
- 山中薬師堂鰐口【県有文】
- 玉来神社神像（23軀）【県有文】
- 金凝神社木造仮面【県有文】
- 本城くにち楽【県無民】
- 玉来神社拝殿と棟札【市有文】
- 宇土遺跡3号墳【市史跡】
- 見竹天満宮の天満かつら【市天記】
- 出口本村楽（出口くにち中村楽）【市無民】
- 出口袋七夕楽（出口くにち袋七夕楽）【市無民】
- 五馬楽【市無民】

みんなの身近にある文化財を探してみよう！



日本遺産とは

国は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを『日本遺産 (Japan Heritage)』として認定し、観光振興など地域活性化に役立てる仕組みを創設しました。

「文化財を活用した地方創生」、「文化財版クールジャパン」戦略として、文化財の保存・整備を図るだけでなく、観光資源として積極的に国内外へ発信し、活用するための新しい施策です。令和5年度現在、全国で104件が日本遺産に認定されています。

以下、日本遺産の目的や概要、そして今回認定を受けたストーリーなどを紹介します。

● 日本遺産の説明 (文化庁HPより)

(1) 我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定

「日本遺産 (Japan Heritage)」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

(2) 世界遺産や指定文化財との違い

世界遺産登録や文化財指定は、いずれも登録・指定される文化財 (文化遺産) の価値付けを行い、保護を担保することを目的とするものです。一方で日本遺産は、既存の文化財の価値付けや保全のための新たな規制を図ることを目的としたものではなく、地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としている点に違いがあります。

(3) 認定による効果

「日本遺産」に認定されると、認定された当該地域の認知度が高まるとともに、今後、日本遺産を通じた様々な取組

を行うことにより、地域住民のアイデンティティの再確認や地域のブランド化等にも貢献し、ひいては地方創生に大いに資するものとなると考えています。

● 認定のタイトル

「近世日本の教育遺産群 ―学ぶ心・礼節の本源―」

● 認定自治体

茨城県水戸市、栃木県足利市、岡山県備前市、
大分県日田市

● 認定されたストーリーの概要

「我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示した。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれている。」

このように、日本の伝統や文化を語る上で我が国の魅力を十分に伝えるものとして高く評価されました。

日本遺産にはストーリーを構成する文化財群があり、これらを「構成文化財」と呼んでいます。

日田市では、廣瀬淡窓が創設した私塾「咸宜園」の跡や淡窓旧宅、淡窓が初めて塾を開いた長福寺、また江戸時代の「学園都市」の姿を今に伝える豆田町などが構成文化財になっています。

また、連携して取り組む茨城県水戸市では江戸時代を代表する日本最大規模の藩校「弘道館」、栃木県足利市では日本最古の学校「足利学校」、岡山県備前市では日本最古の庶民の学校である「閑谷学校」などが教育遺産群として共に日本遺産の認定を受けました。

水戸市



旧水戸彰考館跡

徳川光圀により開設された「大日本史」の編纂局。光圀に招かれた明の儒学者朱舜水は、水戸藩の修史事業に大きな影響を与えた。



旧弘道館（正庁）

総合大学ともいえる藩校の代表例。医学館では種痘が実施され、徳川斉昭は実子2人に種痘を行うなど、領内に普及を図った。現在でも館内では、論語教室が行われている。



旧弘道館



大日本史

水戸徳川家第2代藩主徳川光圀によって開始され、水戸藩の事業として継続し、明治時代に完成した歴史書。



日新塾跡

弘道館と同時期に水戸藩郊外で運営された私塾。水戸藩士を含む多彩な門人を輩出した。多様な教育科目を備え、医学も盛んであった。



常磐公園（偕楽園）

弘道館と一対の教育施設として造られた庭園。園内には、学問興隆の象徴として、「好文木」として知られる梅が植樹された。



足利学校跡（聖廟）

現存する日本最古の学校の遺跡。我が国儒学の学灯を伝える学問の府として全国より学徒が集った。自由で開放的な学びと自学自習の精神は、近世の学校の原点となった。なお、聖廟（孔子廟）は国内現存最古のものである。



足利学校跡（学校門）



足利学校跡

足利市



国宝漢籍『礼記正義』『尚書正義』『文選』『周易注疏』

漢籍を中心とした貴重な書籍の宝庫である足利学校は、近世期も全国から学者や著名人が訪れ、蔵書の閲覧や研究が行われた知のネットワークのセンターであった。



釋奠

聖廟では、孔子のまつりである釋奠が営まれる。伝統的な祭器を用い、現在は毎年11月23日に行われている。

備前市



井田跡
池田光政が中国周時代の土地制度である井田制を再現させた新田。一部は学田となり、閑谷学校の経営をささえた。



旧閑谷学校
岡山藩主池田光政が造った世界最古の庶民のための公立学校で、江戸時代前期の建物と配置がほぼそのままの形で残る稀有な文化遺産。



備前国和気郡井田村延原家文書
検地帳などからは当時の学校領の様子が、入学願書や教科書等からは江戸時代の子供たちが学校に通う様子がわかる。



熊沢蕃山宅跡
池田光政は学校創立のきっかけとなる儒教思想を儒学者熊沢蕃山から学んだ。蕃山隠居の地が学校から程近いところに残る。



釈菜
江戸時代の学校には、儒学の祖孔子を祀る建物が造られることが多く、ここでは孔子の徳を称える釈菜の儀式が行われた。閑谷学校では、貞享3年(1686)から始まり、現在も行われている。



咸宜園関係歴史資料
私塾咸宜園の「入門簿」や「会計録」、和漢籍など、塾の実態を明らかにする資料が残る。



廣瀬淡窓旧宅及び墓
廣瀬淡窓の人間形成に大きな影響を与えた旧宅と咸宜園塾主らの墓(長生園)が現存する。



咸宜園跡
廣瀬淡窓が創設した近世日本最大規模の私塾跡。

日田市



日田市豆田町重要伝統的建造物群保存地区
私塾咸宜園と共生した町並みが残る。



桂林園跡(桂林荘公園)
咸宜園の前身である私塾跡。それまで借家して講義を行っていた淡窓が初めて自らの塾舎を構えた場所で、塾生を励ます漢詩として全国的に著名な「休道の詩」(桂林荘雜詠示諸生)が詠まれた。



長福寺本堂
淡窓が最初に塾を開いた寺院の本堂が現存する。当時、出身僧侶が京都の高倉学寮の講師となるなど、日田における学問の中心であった。幼少時の淡窓はこの寺の僧侶に学び、その人間形成に影響を受けている。

『子ども版日田市の歴史と文化財』編集・執筆・協力者一覧

【初版】（職名は当時のまま）

監修

後藤宗俊（別府大学名誉教授・日田市文化財保護審議会会長）

豊田寛三（大分大学名誉教授・大分県文化財保護審議会会長）

編集

日田市教育庁文化財保護課

編集責任者

財津俊一（文化財保護課長）

執筆担当

後藤宗俊（別府大学名誉教授・日田市文化財保護審議会会長）

豊田寛三（別府大学学長・大分県文化財保護審議会会長）

大神信澄（日田市文化財保護審議会委員）

行時桂子・若杉竜太・渡邊隆行（以上、日田市教育庁文化財保護課主査）、上原翔平（同課主任）、廣末雅代（同課主事）

吉田博嗣（同課咸宜園教育研究センター副主幹）、原田弘徳（同課世界遺産推進室主任）

溝田直己（同課咸宜園教育研究センター主任）、深町浩一郎（同課咸宜園研究センター研究員）

行時志郎（日田市立博物館副主幹）

挿絵

財津寅日出、原田象三郎、藤野美音

題字

合原多賀雄（日田市教育長）

協力者

高田美保（編集担当）

【第2版】（職名は当時のまま）

監修：豊田寛三（大分大学名誉教授・大分県文化財保護審議会会長）

編集責任者：梶原康弘（文化財保護課長）、執筆・編集担当：行時桂子（文化財保護課主査）、

高村智恵美（咸宜園教育研究センター主幹）

【第3版】

編集責任者：吉田博嗣（文化財保護課長）、執筆・編集担当者：渡邊隆行（文化財保護課主幹）

資料・参考文献 等

（市町村史・文化財図書）

『大分県の文化財』大分県教育委員会発行・1991）

『日田郡の文化財』（大分県教育委員会発行・1981）

『天領日田の文化財』（大分県教育委員会発行・1984）

『日田市史』（日田市史編纂委員会発行・1989）

『日田市の歴史と文化財』（日田市教育委員会発行・1996）

『天瀬町史 郷庄制から町制まで』（天瀬町発行・1971）

『あまがせの文化財』（天瀬町発行・1998）

『天瀬町誌』（天瀬町発行・2004）

『大山町誌』（大山町発行・1995）

『上津江村誌』（上津江村教育委員会発行・1992）

『上津江の文化財』（上津江村教育委員会発行・2002）

『上津江村誌 続編』（上津江村教育委員会発行・2005）

『中津江村誌』（中津江村教育委員会発行・1989）

『中津江村の文化財』（中津江村教育委員会発行・2002）

『前津江村史』（前津江村発行・1979）

『前津江の文化財』（大分県教育委員会発行・1980）

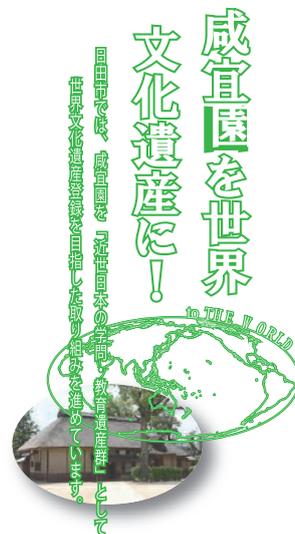
『日田市の歴史と文化財』（日田市教育委員会発行・2012）

(調査報告書)

- 『史蹟名勝天然記念物調査報告書第十一号』「伝来寺の古苑」(大分県発行・1933)
- 『史蹟名勝天然記念物調査報告書第十二号』「津江に於ける勤王遺蹟附其の他の史蹟」(大分県発行・1934)
- 『法恩寺古墳』(日田市教育委員会発行・1959)
- 『伝来寺庭園調査報告書』(中津江村教育委員会発行・1968)
- 『大分県文化財調査報告第五十一号』「日田の文化財」(大分県発行・1981)
- 『前津江村の石造物 中世・近世』(前津江村教育委員会発行・1985)
- 『宇土遺跡』(天瀬町教育委員会発行・1986)
- 『大分県の装飾古墳』(大分県教育委員会発行・1994)
- 『大分県前津江村 御前・釈迦岳の自然』(郷土日田の自然調査会発行・1994)
- 『ガランドヤ古墳 - 大分県日田市所在装飾古墳の調査報告 - 』(日田市教育委員会発行・1986)
- 『日田隈町 | 日田市隈の伝統的町並み調査報告書 | 』(隈のまちづくり委員会・日田市発行1999)
- 『平成一四年度(2002年度)日田市埋蔵文化財年報』(日田市教育委員会発行・2003)
- 『平成一五年度(2003年度)日田市埋蔵文化財年報』(日田市教育委員会発行・2004)
- 『日田市東部地域の自然』「日田市とその周辺地域の山・盆地・丘陵のおいち」(木戸道男・郷土日田の自然調査会発行・2003)
- 『日田豆田町 | 日田市豆田町伝統的建造物群保存対策調査報告 | 』(日田市教育委員会発行・2004)
- 『朝日天神山古墳群』(日田市教育委員会発行・2005)
- 『求来里の遺跡 I・II』(日田市教育委員会発行・2009)
- 『大分県指定有形文化財草野家住宅調査報告書』(草野家住宅保存修理委員会・2009)
- 『日田市上津江町の自然』(郷土日田の自然調査会発行・2010)
- 『日田の鶴飼』(日田市教育委員会発行・2010)
- 『小鹿田焼の里文化的景観保存計画(第三版)』(日田市教育委員会発行・2010)
- 『史跡咸宜園跡秋風庵他保存修復工事報告書 - 発掘調査編 - 』(日田市教育委員会発行・2005)
- 『永山城跡』(日田市教育委員会発行・2011)

(一般図書・雑誌など)

- 『国華 八五号』「豊後日田出土の漢金銀錯嵌珠籠文鉄鏡」(梅原未治著・1963)
- 『装飾古墳』(小林行雄著・平凡社発行・1964)
- 『大分県の考古学』(賀川光夫編・吉川弘文館発行・1971)
- 『日田金石年史』(武石繁次著・日田市教育委員会発行・1973)
- 『日田木材協同組合百年史』(日田木材協同組合発行・1979)
- 『角川日本地名大辞典四四大分県』(角川書店発行1980)
- 『大分の古代美術』(三輪嘉六・OBS大分放送発行・1983)
- 『装飾古墳の秘密 壁画文様の謎を解く』(日下八光著・講談社発行・1987)
- 『装飾古墳の謎』(玉利勲著・大和書房発行・1987)
- 『東アジアの考古と歴史 下巻』「石製表飾考」(柳沢一男著・同朋舎発行・1987)
- 『東九州歴史考古学論考』(後藤宗俊著・山口書店発行・1991)
- 『装飾古墳の世界』(国立歴史民俗博物館編・朝日新聞社発行・1993)
- 『自然ガイドブック 酒呑童子山地域の自然』(大分県生活環境部生活環境課発行・2000)
- 『月刊文化財 平成一五年八月号』(文化庁編・2003)
- 『日田文化』四七(日田市教育委員会発行・2005)
- 『日田文化』四八(日田市教育委員会発行・2006)
- 『図説中津日田玖珠の歴史』(豊田寛三監修・郷土出版社発行・2006)
- 『小野川の阿蘇4火砕流と埋没樹木が語る9万年の世界』(日田市教育委員会発行・2011)
- 『Jr. 日本の歴史3 武士の世の幕あけ鎌倉時代から室町時代』(小学館・2010)
- 『Jr. 日本の歴史4 乱世から統一へ 戦国時代』(小学館・2011)



【子ども版】

日田市の歴史と文化財

初版 平成26年3月31日発行
第2版 平成31年3月31日発行
第3版 令和6年3月31日発行

発行

日田市教育委員会

編集

日田市教育庁文化財保護課

〒877-8601

大分県日田市田島2丁目6-1

電話番号

0973-24-7171

ファックス番号

0973-24-7024

メールアドレス

bunka@city.hita.lg.jp

子ども版

日田市の歴史と文化財

2024